

# Economic Indicators

発表日: 2020年11月10日(火)

## 国際収支(2020年9月)

～9月の経常収支は8月から下振れも、7-9月では貿易収支の黒字化を主因に大幅な持ち直し～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支	
					貿易収支			サービス収支
2019	9月	15,926	14,568	▲ 515	▲ 232	▲ 283	16,881	
	10月	18,541	17,277	1,949	1,229	720	16,355	
	11月	14,563	18,072	1,750	842	907	17,933	
	12月	5,449	18,839	3,306	1,805	1,501	16,654	
2020	1月	6,617	16,721	▲ 1,208	▲ 615	▲ 593	19,318	
	2月	31,804	23,622	4,822	8,184	▲ 3,362	20,234	
	3月	19,595	9,218	▲ 4,691	▲ 1,407	▲ 3,284	14,955	
	4月	2,033	2,413	▲ 13,678	▲ 9,861	▲ 3,816	17,364	
	5月	10,796	7,229	▲ 8,692	▲ 4,921	▲ 3,771	17,925	
	6月	1,333	10,078	▲ 4,438	▲ 1,671	▲ 2,768	16,262	
	7月	14,992	9,951	▲ 1,416	557	▲ 1,973	12,433	
	8月	21,145	16,593	1,640	5,412	▲ 3,771	17,085	
	9月	16,602	13,455	4,276	7,774	▲ 3,498	16,035	

(出所) 財務省「国際収支統計」

### ○7-9月の経常収支は貿易収支の黒字拡大を主因に前期比で大幅に増加

9月の経常収支(原数値)は16,602億円の黒字(コンセンサス:20,201億円の黒字、レンジ:13,160億円の黒字~22,960億円の黒字)とコンセンサスを下回る結果となった。また、季節調整値では13,455億円の黒字(前月比▲18.9%)となった。貿易収支の黒字拡大が続いた一方、第二次所得収支が大幅に悪化したことで、経常収支は8月から減少した。四半期で見ると、輸出の持ち直しによる貿易収支の黒字化を受け、7-9月の経常収支は季節調整値で前期比+102.8%と大幅に増加した。もっとも、依然として新型コロナウイルス感染拡大前を下回る水準となった。

経常収支(季節調整値)を項目別にみると、貿易・サービス収支は4,276億円の黒字(8月:1,640億円の黒字)と黒字幅を拡大させた。貿易収支が7,774億円の黒字と黒字幅を拡大させたことが主因である。内容をみると、輸出が前月比+5.3%、輸入が同+1.2%と増加した。世界各国での経済活動再開が進んでいることを受け、輸出が輸送用機器を中心に引き続き高い伸びとなり、貿易収支の黒字拡大が続いた。サービス収支については▲3,498億円の赤字となった。輸送収支とその他サービス収支の赤字が続いたことや、訪日外客数の急減に伴う旅行収支の黒字低迷が影響している(旅行収支7月:175億円の黒字→8月:261億円の黒字→9月:297億円の黒字)。

第一次所得収支は16,035億円の黒字(8月:17,085億円の黒字)となった。第一次所得収支は高い水準を維持しており、引き続き経常収支の黒字を下支えする構図が続いている。

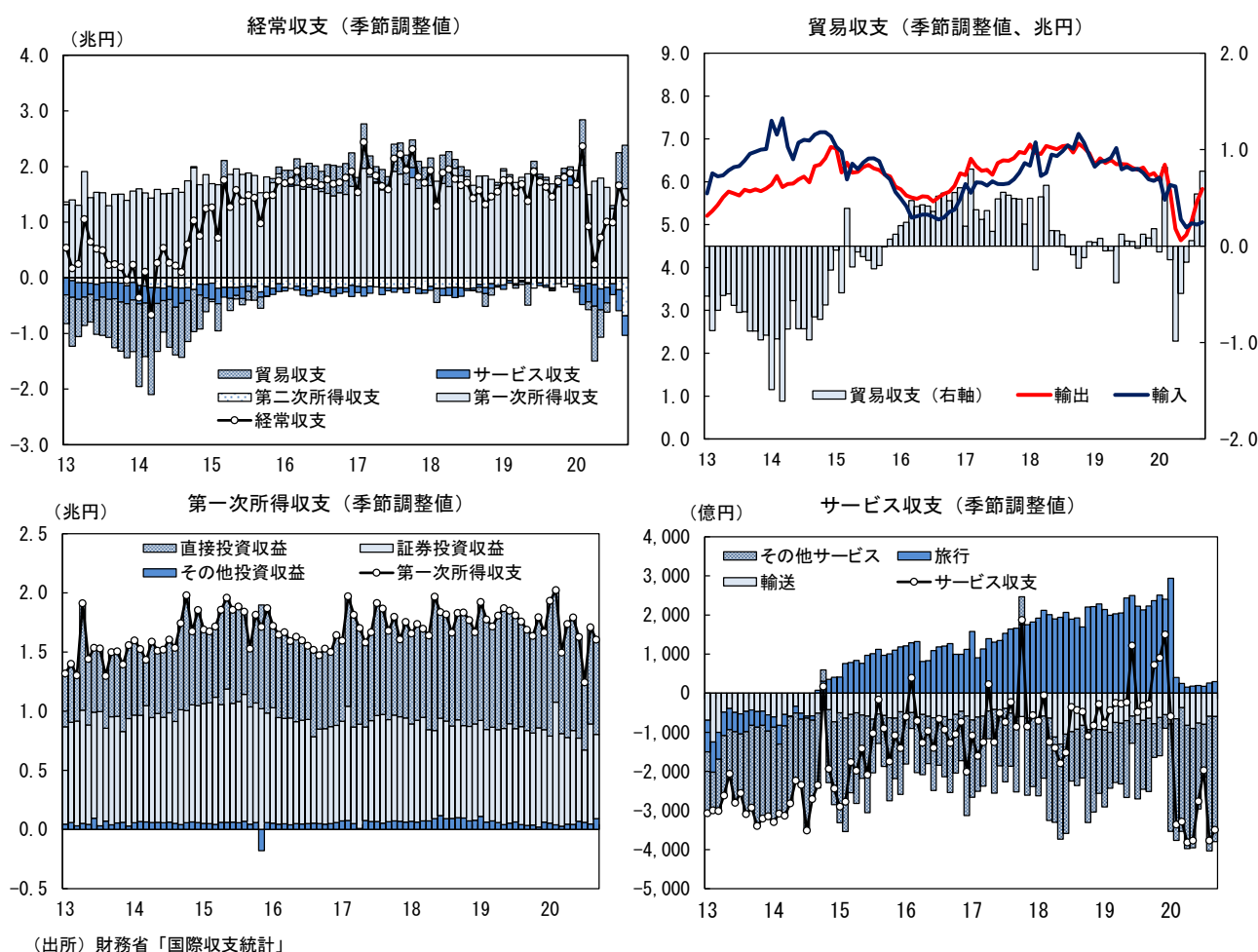
また、第二次所得収支が8月から大幅に悪化(8月:▲2,132億円の赤字→9月:▲6,855億円の赤字)し、9月の経常収支を押し下げた。

## ○貿易黒字が経常黒字の持ち直しをけん引も、先行きは新型コロナ前を下回る水準に

以上の通り、9月の経常収支は第二次所得収支の悪化を主因に季節調整値で8月から減少した。また、四半期では、世界経済の持ち直しを受けた貿易黒字の拡大により、7-9月の経常収支は4-6月から黒字を大きく拡大させた。

10月の貿易統計上中旬によると、輸出が前年比▲4.6%、輸入が同▲5.8%となった。これをもとに試算をすると、9月から輸出入ともに増加が続き、特に輸入は大幅な伸びが見込まれる。その結果、10月の貿易収支は9月から黒字幅が縮小するだろう。低水準での推移が続く旅行収支については、訪日外客数回復に向けた動きが進んでいるが、国・地域や人数が制限されており、観光目的の訪日外客受け入れについては先となることから、回復にはまだ時間を要するだろう。第一次所得収支については、今後も高い水準で推移し、経常収支の黒字を支える構図は続くとみられる。もっとも、前年比でみると、企業収益の悪化による配当金の減少などにより受取額は減少しており、今後も下振れリスクが残ることには注意が必要だ。

先行きについても、世界経済の回復に伴う輸出の持ち直しや高水準の第一次所得収支が経常収支の黒字に寄与するとみられる。もっとも、欧米での新型コロナウイルスの感染再拡大やそれに伴う経済活動の制限、米中対立の行方など、先行き不透明感は強い。今後も経常収支は新型コロナウイルス感染拡大前を下回る水準で推移するとみられる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。